

# 関東東山病害虫研究会 第65回研究発表会・総会プログラム

日時：2018年2月21日(水) 10:00~16:24  
 場所：群馬県前橋市元総社町335-8 群馬県市町村会館

## 第1会場(2階)大研修室

## 一般講演12分

1 節：8分, 2 節：10分, 3 節：12分

時間	番号	講演題名	座長
10:00	虫1-1	<b>明治大学黒川農場における施設イチゴの害虫管理</b> ○中村晃伸1・鶴田万智1・小泉寛明2・川田祐輔3・大矢武志3・糸山 享1(明治大学大学院農学研究科・2明治大学黒川農場・3神奈川県農業技術センター)	大井田 寛 (千葉県農林総合研究センター)
10:12	虫1-2	<b>イチゴのマイナー害虫であるイチゴケナガアブラムシの増殖率と天敵による防除の可能性について(1)</b> ○光永貴之1・大野茉莉2・小林 誠2・福田 充2・長坂幸吉1・後藤千枝1・本多健一郎1(1農研機構中央農業研究センター・2栃木県農業試験場)	
10:24	虫1-3	<b>次世代型バンカー資材キットを核としたイチゴの輸出に対応できるアブラムシ類防除技術の検討</b> ○柳田裕紹1・長坂幸吉2・手塚俊行3・小原慎司3・伊藤健司3・小林 誠4・大野茉莉4(1福岡県農林業総合試験場・2農研機構中央農業研究センター・3アグリ総研・4栃木県農業試験場)	
10:36	虫1-4	<b>次世代型バンカー資材キットによるナス・ピーマンでのアブラムシ類に対する防除効果</b> ○長坂幸吉1・日本典秀1・光永貴之1・上杉龍士1,2・有本 誠1・手塚俊行3・小原慎司3・伊藤健司3(1農研機構中央農業研究センター・2現 農研機構東北農業研究センター・3(株)アグリ総研)	
10:48	虫1-5	<b>赤銀色マルチはワケネギのアザミウマ類を減らすか? : 予備試験</b> ○大林隆司1・八瀬順也2(1東京都農林総合研究センター・2兵庫県立農林水産技術センター)	下田武志 (農研機構中央農業研究センター)
11:00	虫1-6	<b>「赤色防虫ネット」は何故アザミウマ類に対して高い防除効果を示すのか</b> ○大矢武志1・川田祐輔2・浜田泰子1・阿部弘文3・廣橋寿祥3・金満伸央4・安部 洋5・植草秀敏1(1神奈川県農業技術センター生産環境部・2神奈川県農業振興課・3日本ワイドクロス株式会社・4スタンレー株式会社・5理研バイオリサーチセンター)	
11:12	虫1-7	<b>高輝度LED防除器「レピガードシャイン」による施設栽培カラーピーマンのオオタバコガ被害軽減効果</b> ○金子政夫1・野口忠久1・桑澤久仁厚2・宮澤孝幸3・南島 誠3(1長野県野菜花き試験場・2長野県病害虫防除所・3長野県南信州農業改良普及センター阿南支所)	
11:24	虫1-8	<b>灌水同時施肥装置を利用した土壌くん蒸剤による古株枯死処理とD-D剤併用によるピーマンネコブセンチュウの防除効果</b> ○安田智昭1・高安美保2・小川孝之1(1茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所・2茨城県鹿行農林事務所経営・普及部門)	大林隆司 (東京都農林総合研究センター)
11:36	虫1-9	<b>土壌還元消毒における土壌へのアワユキセンダングサ煮沸抽出物施用がサツマイモネコブセンチュウ密度抑制効果、トマトの生育および収量に及ぼす影響</b> ○齊藤俊一1・鐘江良彦1・武田 藍1・國友映理子1・福田 寛1・田場 聡2(1千葉県農林総合研究センター・2琉球大学)	
11:48			
12:00		昼食・休憩	
13:00		総会 (第1会場〈2階〉大研修室)	
13:40		特別講演(第1会場〈2階〉大研修室) <b>「私達の線虫研究の歩み -IPM研究と防除手段30年の転変-」</b> 水久保 隆之氏(丸和バイオケミカル株式会社 技術顧問)	植原健人 (農研機構中央農業研究センター)
14:30		休憩	
14:36	虫1-10	<b>マイクロプレートを使用したネダニ類の簡易な薬剤検定法とその感受性</b> ○宇賀博之(埼玉県農業技術研究センター)	大矢武志 (神奈川県農業技術センター)
14:48	虫1-11	<b>ネギハモグリバエとネギアザミウマの黄色粘着トラップへの誘殺及びネギハモグリバエの羽化時間帯</b> ○土井 誠・中野亮平・石川隆輔・片山晴喜(静岡県農林技術研究所)	
15:00	虫1-12	<b>ネギネクロバネキノコバエ成虫に対する薬剤の効果とネギ残渣対策</b> ○岩瀬亮三郎・渡辺俊朗・小俣良介(埼玉県農業技術研究センター)	
15:12	虫1-13	<b>ウメ輪紋ウイルスのアブラムシ有翅虫による媒介</b> ○櫻井民人・千秋祐也・久保田健嗣・宇杉富雄・津田新哉(農研機構中央農業研究センター)	村上芳照 (山梨県総合農業技術センター)
15:24	虫1-14	<b>天敵保護装置「バンカーシート®」を用いたニホンナシのハダニ類の密度抑制</b> ○中井善太1・武田 藍1・金子洋平1・福田 寛1・園田昌司2・大谷 徹3(1千葉県農林総合研究センター・2宇都宮大学農学部・3千葉県農林水産部担い手支援課)	
15:36	虫1-15	<b>東京都のナシにおけるナミハダニの薬剤感受性および葉の巻きによる薬剤付着量の低下</b> ○飯塚 亮1・嶋田 綾1・坂本 彩1・加藤綾奈1,2・山口修平3(1東京都農林総合研究センター・2現 東京都八丈支庁・3東京都病害虫防除所)	
15:48	虫1-16	<b>栃木県内モモ園地におけるクビアカツヤカミキリ <i>Aromia bungii</i> (Faldermann) の発生状況および防除対策の検討</b> ○小林 誠1・大野茉莉1・福田 充1・渡邊 守2・小山田浩一2・渡邊浩樹3・春山直人4(1栃木県農業試験場・2栃木県農業環境指導センター・3安足農業振興事務所・4栃木県経営技術課)	片山晴喜 (静岡県農林技術研究所)
16:00	虫1-17	<b>モモのカイガラムシ類幼虫の分散と定着に関する観察</b> ○内田一秀1・村上芳照2・綿打享子1・功刀幸博1(1山梨県果樹試験場・2現 山梨県総合農業技術センター)	
16:12	虫1-18	<b>海外製フェロモントラップを活用したブルーベリータマバエ発生消長の解明</b> ○藍澤 亨1・小林逸郎1・吉濱 健2・徳田 誠3(1群馬県農業技術センター・2サンケイ化学(株)・3佐賀大学農学部)	
		閉会	

第2会場（5階）501研修室 病害

一般講演12分

1 鈴：8分，2 鈴：10分，3 鈴：12分

時間	番号	講演題名	座長
10:00	病2-1	<b>トマトかきよう病に対する高接ぎ木法および各種消毒資材の防除効果の検討</b> ○高橋怜子・福田 充・山崎周一郎・駒場麻有佳(栃木県農業試験場)	池田健太郎 (群馬県農政技術支援課)
10:12	病2-2	<b>イチゴうどんこ病に対する微生物殺虫剤の防除効果</b> ○山岸菜穂1・野口忠久1・山中 聡2(1長野県野菜花き試験場・2アリスタ ライフサイエンス株式会社)	
10:24	病2-3	<b>模倣的な太陽熱土壌消毒によるネギ黒腐菌核病菌菌核の致死条件の検討</b> ○伊代住浩幸・斉藤千温(静岡県農林技術研究所)	
10:36	病2-4	<b>千葉県の春夏どりニンジンにおける乾腐病の感受性の品種間差について</b> ○中村耕士・大井田 寛・鈴木健司・金子洋平・中田菜々子(千葉県農林総合研究センター)	山崎周一郎 (栃木県農業試験場)
10:48	病2-5	<b>長野県におけるレタスべと病の発生状況および防除対策</b> ○石山佳幸1・小松和彦1・小木曾秀紀2・山下 亨1(1長野県野菜花き試験場佐久支場・2長野県農業試験場)	
11:00	病2-6	<b>神奈川県内で発生したウメ灰星病の発生実態と防除</b> ○岡本昌広1・島田涼子1・池田和裕2・曾根田友暁2・中島 修2・折原紀子1(1神奈川県農業技術センター生産環境部・2神奈川県農業技術センター足柄地区事務所)	
11:12	病2-7	<b>トウモロコシすすむく病の発生と気象条件</b> ○岡部郁子(農研機構 畜産研究部門)	窪田昌春 (農研機構野菜花き研究部門)
11:24	病2-8	<b>キャベツピシウム腐敗病による結球部の褐変症状の圃場での再現</b> ○三國和彦1・三木静恵1・池田健太郎2・大河原一品1・酒井 宏1(1群馬県農業技術センター・2群馬県農政技術支援課)	
11:36	病2-9	<b>茨城県のミズナ周年栽培圃場における立枯れ症の発生実態</b> ○田中弘毅・林可奈子・宮本拓也・鹿島哲郎(茨城県農業総合センター 園芸研究所)	
11:48			
12:00		昼食・休憩	
13:00		総会（第1会場〈2階〉大研修室）	
13:40		特別講演（第1会場〈2階〉大研修室） <b>「私達の線虫研究の歩み -IPM研究と防除手段30年の転変-」</b> 水久保 隆之氏(丸和バイオケミカル株式会社 技術顧問)	植原健人 (農研機構中央農業研究センター)
14:30		休憩	
14:36	病2-10	<b>Botrytis cinereaによるカンゾウ灰色かび病（新称）およびAthelia rolfsiiによるジオウ白絹病（新称）</b> ○佐藤豊三1・飯田 修2・五十嵐元子2・菱田敦之2・川原信夫2・一木(植原)珠樹1・根本 博1(1農研機構 遺伝資源センター・2医薬健康研 薬用植物資源研究センター)	宮本拓也 (茨城県農業総合センター 園芸研究所)
14:48	病2-11	<b>トマト黄化えそウイルスによるラッカセイ黄化えそ病（病名再提案）</b> ○奥田充1・斉藤千温2・土井誠2・一木(植原)珠樹3・花田薫3(1農研機構中央農業研究センター・2静岡県農林技術研究所・3農研機構遺伝資源センター)	
15:00	病2-12	<b>メロンえそ斑点病発病圃場から効率的に病原ウイルスを検出する条件</b> ○久保周子1・鐘ヶ江良彦2・植松清次3・河名利幸1(1千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所・2千葉県農林総合研究センター・3元 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所)	
15:12	病2-13	<b>LAMP法によるオオムギ斑葉病保菌種子の迅速診断</b> ○駒場麻有佳1・山城 都2・高橋怜子1・山崎周一郎1・福田 充1(1栃木県農業試験場・2栃木県河内農業振興事務所)	西宮智美 (茨城県農業総合センター 農業研究所)
15:24	病2-14	<b>水稻病害虫複合抵抗性品種「彩のきずな」の減農薬栽培</b> ○酒井和彦・植竹恒夫(埼玉県農業技術研究センター)	
15:36	病2-15	<b>コムギ赤かび病、さび病類の効率的防除法の検討</b> ○中島宏和・萬田 等・豊嶋悟郎(長野県農業試験場)	
15:48	病2-16	<b>山梨県におけるイネ株腐病の発生</b> ○舟久保太一・瀧川雄一(1山梨県総合農業技術センター・2静岡大学創造科学技術大学院)	酒井和彦 (埼玉県農業技術研究センター)
16:00	病2-17	<b>高密度播種育苗・疎植栽培の病害防除</b> ○萬田 等・中島宏和・豊嶋悟郎(長野県農業試験場)	
16:12	病2-18	<b>栃木県におけるQoI剤耐性イネいもち病菌の発生</b> ○齊藤良佳1・塚原俊明2・渡邊 守1(1栃木県農業環境指導センター・2現 栃木県農業試験場)	
16:24		閉会	

第3会場（5階）502研修室 虫害

一般講演12分

1 鈴：8分，2 鈴：10分，3 鈴：12分

時間	番号	講演題名	座長
10:00	虫3-1	長野県におけるLED光源を利用した予察灯の水稻害虫に対する誘引性 ○阿曾和基・豊嶋悟郎(長野県農業試験場)	植竹恒夫 (埼玉県農業技術研究センター)
10:12	虫3-2	斑点米カメムシ類のフェロモントラップによるクモ類のモニタリングの可能性 ○石島 力(農研機構中央農業研究センター)	
10:24	虫3-3	イネ縞葉枯病発病抑制のためのヒメトビウンカに対する効果的な薬剤防除体系 ○諏訪順子・北村 舞・西宮智美(茨城県農業総合センター農業研究所)	
10:36	虫3-4	イチモンジセセリ幼虫齢期に対するBT剤散布の効果 ○石崎摩美・石島 力・三浦重典(農研機構中央農業研究センター)	
10:48	虫3-5	大型施設トマト栽培でのコナジラミ類に対するタバコカスミカメの密度抑制効果 ○長澤恵介1・日本典秀2・後藤格士3(1株式会社誠和・2農研機構中央農業研究センター・3株式会社トマトパーク)	豊嶋悟郎 (長野県農業試験場)
11:00	虫3-6	5種のウリ科作物におけるヒメハナカメムシ類および餌害虫類の発生推移 ○井手雅和・糸山 享(明治大学農学部)	
11:12	虫3-7	シソサビダニの越冬生態と休眠条件 ○鈴木俊之・多々良明夫・上遠野富士夫・鍵和田聡(法政大学生命科学部)	
11:24	虫3-8	茨城県の子実用トウモロコシ栽培におけるアワノメイガの発生と被害 ○平江雅宏・柴 卓也・松崎守夫(農研機構中央農業研究センター)	高木素紀 (茨城県農業総合センター園芸研究所)
11:36	虫3-9	土壌や砂を用いないヒョウタンゾウムシ類の新たな採卵方法 ○大井田 寛1・福田 寛1・鈴木健司1・清水喜一2(1千葉県農林総合研究センター・2住友化学株式会社)	
11:48	虫3-10	ダイズ子実吸汁性カメムシ類の防除回数削減に向けたIPMの実証 ○植竹恒夫・酒井和彦(埼玉県農業技術研究センター)	
12:00	昼食・休憩		
13:00	総会（第1会場〈2階〉大研修室）		
13:40	特別講演（第1会場〈2階〉大研修室） 「私達の線虫研究の歩み -IPM研究と防除手段30年の転変-」 水久保 隆之氏(丸和バイオケミカル株式会社 技術顧問)		植原健人 (農研機構中央農業研究センター)
14:30	休憩		
14:36			
14:48			
15:00			
15:12			
15:24			
15:36			
15:48			
16:00			
16:12			

閉会